

神への純潔／信仰の勇気

福音書の中で、主イエスはしばしば、ドラマティックともいうべきユダヤ的修辭的な表現をもって弟子たる者の道を教えられた。マタイ5：29～30もその一例である。主は言われた、「もし右の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。もし、右の手があなたをつまずかせるなら切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである」。実に激しく厳しい表現である。

この主イエスの言葉は、文字通り右の目をえぐり出し、或いは、右の手を切り捨てよ、という意味ではない。もしそうであれば大変なことになる。かりそめにも、こういう仕方、神の前にきよい生活を守り、きよい心を保つものであるとするならば、私たちは右目どころか左目も、右手どころか左手も失い、両足も、いや体全体も、細々にきざまれて、もはや見る影もなく無惨な姿で、天国に行くということになる。

手足を切り取るという外的切除は、盗むとか、不品行を犯すとか、という外的な行為としての罪を制限することができるかもしれないが、しかし、盗みたいという心の思いや、見たい、触れたい、自分のものにしたいという心のみだらな思いや欲望、つまり、内的は罪の思いまで抑制することが不可能であることは明らかである。

この言葉における主イエスの真意は、私たちが罪におとし入れるすべてのものに対して、私たちが決然として「ノー」ということ、或いは、私たちの持っているものが、たといそれ自体で善なるものであるとしても、私たちが神から引き離し、私たちの神への清さを妨げ、私たちの霊性を低落させる原因となっているならば、それらに対し、キリスト者は思い切った処置をとらねばならない、ということである。

それが特に性に関する罪との関わりで言われていることは注目すべきである（27、28節）。みだらな性的罪へと誘う本や雑誌、映画やテレビ番組やインターネットのいかがわしいサイト等、現代人は特に注意して、自らの魂を誘惑にさらすことがないように、神への純潔を守らなければならないことを強く教えられる。「あなたにとって、たといそれ自体価値あるものであるとしても、もしそれがあなたのワナとなり、あなたのつまずきとなるならば、勇気を持ってそれを捨てよ」と主は決意をうながされるのである。

ジョン・マーレーの次の言葉は傾聴に価する。「地上の所有物で、それを保有するためにどうしても支払わなければならない代価が罪であるのに、どのような代価を支払っても、なお保有しなければならないほど貴重なものはありえない。・・・たとえ宝がそれ自体どんな貴重なものであっても、この宝が罪に陥る誘因となるならば、その宝が誘因となって陥れる罪の犠牲になるよりは、むしろそれを捨てる心構えをしなければならない」。

私たちにとって、私たちが神から目をそらさせ、私たちが罪におとし入れる“右目”“右手”とは何であろうか。もしそのようなものがあるとするならば罪に陥らないために、神への清さを守るために、それを切り捨てる信仰の勇気を、今、神に求めるべきである。この世のものはすべて相対的なものである。その相対的なものために絶対的なものを失ってはならないのである。